

2. 攘夷派志士

高崎城乗っ取り、横浜焼き討ちを計画

江戸での志士との交流や水戸学に傾倒する尾高惇忠の影響もあり、20代になった栄一は攘夷思想を抱くようになります。

惇忠や従兄の尾高長七郎・渋沢喜作らと国事を論じるなか、文久3年(1863)に69人からなる慷慨組を組織し、横浜外国人居留地の焼き討ちを計画。武器調達のため高崎城の乗っ取りもくろみます。この計画は、当時関東各地で進められていた浪人の拳兵計画に刺激を受けたものでした。

しかし、京都の政変や長七郎による慎重論もあり、最終的には計画は断念されることになりました。

